

整備候補地検討作業計画（修正版）

※本計画に示す平成 28 年度の計画内容は予定とするものである。

年月	検討テーマ	検討項目	詳細内容等	
平成 27 年度	9月 (済)	第1回検討委員会 ・広域化基本構想説明	(1)委員長・副委員長選任 (2)候補地検討作業計画	
	11月 (済)	第2回検討委員会 ・候補地選定条件(案)の検討 ・候補地評価方法(案)の検討	(1)調査対象地域抽出条件(案)の設定 (2)立地回避条件の設定<1>	①必要施設面積 ②法的制約条件 ③自然的制約条件 ④社会的制約条件
	1月 (済)	第3回検討委員会 ・候補地選定条件の決定 ・候補地評価方法の決定 ・第1次選定(案)の検討	(1)調査対象地域(案)の検討 (2)立地回避条件の設定<2>  ●1次スクリーニング：法規制等より施設整備が困難と判断される地域を除外する	①～④の条件に基づき検討 ⑤物理的制約条件 ⑥地形・地質条件 ⑦災害・環境に対する安全性 ⑧既往の土地利用との整合性
	2月 (済)	第4回検討委員会 ・第1次選定の決定 ・第2次以降の選定について	●第1次調査対象地の決定 ●調査対象エリアの設定 ●選定方針及び条件等の検討	466箇所 41地域⇒32エリア
平成 28 年度	5月	第5回検討委員会 ・調査対象地選定方法の検討 ・簡易評価方法(案)の検討 ・第2次選定(案)の検討	●第2次調査対象地の決定 ●2次スクリーニング：法規制等の追加設定や客観的項目の事前検討により調査対象地やエリアを評価し、適当な候補地の選定をする。	466箇所⇒数百箇所 ①～⑧の条件に基づき追加検討 ⑨～⑫の条件に基づき事前検討
	6月	第6回検討委員会 ・簡易評価方法の決定 ・第2次選定(案)の決定	●第3次調査対象地の決定 ●3次スクリーニング：様々な条件の組み合わせを検討し、適当な候補地の選定を行う。	数百箇所⇒数十箇所 ⑨収集・運搬の効率性 ⑩用地取得の可能性 ⑪余熱等利用の関係 ⑫関連施設との関係
	7月	第7回検討委員会 ・第2次選定	候補地を10～12箇所程度選定する。(第1次整備候補地)	①～⑫の条件に基づき検討
	8月	第8回検討委員会 ・第3次選定	候補地を5～6箇所程度選定する。(第2次整備候補地)	⑬比較評価
	9月	第9回検討委員会 ・候補地の現地調査	現地及び周辺の視察，確認	・前回までの検討内容を現地にて確認
10月	第10回検討委員会 ・第4次選定	最終候補地3箇所程度を決定する。	⑭評価項目の重み付け	
11月	第11回検討委員会 ・報告書のとりまとめ	・周辺施設の整備の方向性について，詳細を詰める事項を確認，整理する。	・選定経過及び結果内容 ・環境アセスの留意事項 ・環境・景観の配慮事項 ・施設の付帯機能(還元施設等)	

## 整備候補地選定の手順整備候補地選定の手順と考え方

- 候補地選定の手順を下図に示します。
- 検討は、以下の考え方に基づき、4段階で進めるものとします。
  - 第1次選定：必要面積等から整備可能地域の条件を設定し、法的規制や災害の影響など、不適切と考えられる地域を除外し、残った範囲から条件に適合する地域を抽出する。
  - 第2次選定：各種制約への適合性、諸条件への効率性、施設整備の可能性を考慮し地域を絞り込む。
  - 第3次選定：資源循環の中心的施設として十分に機能するための要件を満たす地域を絞り込む。
  - 第4次選定：技術、環境、経済面などを総合的に評価して、最も合理的な箇所を選定する。

### 整備候補地選定フロー

